

適正施設ガイドライン

【ネコギギ *Pseudobagrus ichikawai*】

2020年9月

公益社団法人日本動物園水族館協会

1 飼育環境

1-1 水温

外気温に準じる形で飼育は可能だが、25℃以下が望ましい。

1) 未成魚・成魚

室温飼育 10～25℃、野外飼育にて冬眠期を設ける場合は1～15℃（11～4月）

2) 仔稚魚

室温飼育（20～25℃）

1-2 振動・光

日照、気温、水温等の概日・概年リズムが阻害されないような配慮が必要。特に、小型水槽で飼育する場合は、日間での温度変化が著しい場所は望ましくない。

1-3 照明（日照、人工照明、照明時間長）

照明時間は夏と冬で自然日長にあわせるとよい。照明は自然光、人工照明（蛍灯、LED灯のどちらでも可）のどちらでも良いが、自然日長および自然な水温変化の方が良い。

1-4 水槽サイズ（面積、容積）

45 cm以上の水槽であれば飼育は可能だが、個体の大きさや収容数に応じて、調整する必要がある。未成魚・成魚の場合90 cm水槽（90×45×45 cm、容量180ℓ）で10尾程度まで。野生復帰を視野に入れる場合はより大型水槽で飼育する方が有効。

1-5 構造、設備

1) 未成魚・成魚

水槽の底質は珪砂や砂利とし、底面濾過材とする。隠れ家は、石、素焼きの土管、植木鉢、レンガ、塩化ビニールパイプ等を組み合わせ、数か所作るようにする。濾過は底面式が基本であるが、オーバーフロー式循環濾過、底面濾過方式と外部濾過方式の併用でも良い。底質なしの場合も必ず隠れ家が必要。

2) 卵・仔稚魚

卵が付着した石は孵化仔魚の隠れ家になるのでそのままとするか、別途隠れ家になる小石等を水槽へ入れる。濾過装置は特に必要ないが、水質の悪化に注意し、適宜換水を行う。

1-6 飼育水（水質）

河川水や井戸水または水道水の汲み置きを使用すること



写真1 成魚飼育・繁殖水槽



写真2 成魚飼育水槽



写真3 稚魚育成水槽